

登録コード	UA213500	開講年度	2026				
授業題目	社会課題別PBL				担当教員	廣瀬 要輔 他	
					副担当	菊池 聡・高柳 充利・越智 康詞・川崎 隆・小林 寛	
単位数	2	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社, 2 5 UAカリ・総人社, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 3 UAカリ・総人社・心理・松本, 2 3 UAカリ・総人社・法学						
	【研究科共通】量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。						
	【研究科共通】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組み、問題解決に不可欠な統合的なシナリオを提示する提案力を有する。						
	【研究科共通】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。						
(2)授業の概要	関係する課題が共通で異なる分野における研究を持ち寄り、プロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)かつ双方向のアクティブ・ラーニング授業として実施する。多くの課題は複数の原因が入乱れた複層構造をとったり、一つの結果が新たな原因となるなど結果と原因が複雑に絡み合ったりしている場合が多い。このため、これまでの単独の専門分野の知識や技能のみでは解決方法を見出だせない場合がある。地域のリーダーとして活躍する人材は、このような新たな複雑に絡み合う課題に対しても総合性・柔軟性をもって対処できる応用力が必要となる。一つの課題を専門分野以外の大学院生と協力して議論し、その解決方法を考えることは、直面する自らの研究課題の解決ばかりでなく、将来の未知なる課題への対応に極めて有用である。 この「社会課題別PBL」では、分野横断により、一つの課題に対して各分野の大学院生が一緒に議論し、専門分野の異なる複数の教員から指導を受ける。 遠隔授業を実施する際は、Zoomを使用したリアルタイムオンライン授業をおこないます。ZoomミーティングのURLは、eALPSにて事前にお知らせします。						
(3)授業計画	第1回 導入（課題の関連分野について事前学習、課題の決定） 第2～14回 課題の進捗状況の報告および質疑応答 「社会課題別PBL A」では、指導教員からあらかじめ与えられた喫緊の社会課題に対して分野および他分野在籍の学生の間で議論し、その解決方法を提案する。場合によっては教員からの質問やコメントを受ける。 第15回 まとめ （2コマ連続で計7回実施、5～6名のグループで討論、6グループに分けて実施、正副どちらかの指導教員が当該学生のグループに参加し、うち1名が司会をつとめる。なお、特定の分野の学生が少なくなる場合には当該分野の教員が参加する分野間の偏りをカバーする。） レポートの出題時期や提出期限等については初回ガイダンス又はeALPSにおいて適宜周知する。						
(4)成績評価の方法	議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度（50％）、および最終的に提出するレポートの水準（50％）によって評価する。						
(5)成績評価の基準	議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度が優れており、なおかつ最終レポートにおいて課題設定・分析方法ともに優れているならば「卓越している」とします。同様に、議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度が優れており、最終レポートにおける課題設定・分析方法のいずれかが優れているならば「かなり上にある」、議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度あるいは最終レポートのいずれかが優れているならば「やや上にある」、議論プロセス・調査プロセスでのグループ内貢献度と最終レポートがともに一定水準を満たす場合は「合格水準にある」とします。						
(6)事前事後学習の内容	課題の選定および問題解決のための議論のため、グループ内での課外学習時間（関連論文・記事などの読み込み、聞き取りなどのフィールドワーク）が必要となる。これらを授業時間での議論と往還しながら学習を進める。						
(7)履修上の注意	・無断欠席・遅刻は厳禁。 ・止むを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡すること。						
(8)質問、相談への対応	授業中に質問を受けつける時間を設けるとともに、オフィスアワーまたはアポイントメントによる面談で受講生からの質問に対応する。						
【教科書】	授業の性格上、教科書は存在しない。						
【参考書】	課題内容に従って、指導教員より指示される。						